

をもとにして、雑誌総合目録をコンピューターにのせるべく、実験作業を実際に行なうため、“業務機械化作業グループ”が本館に設けられた。

同グループは研修に参加した本館の職員6名で構成され、自然科学欧文篇の一部を計算機で編集するためのプログラムを作成して、デバッグし、問題点を検討し、本年3月をメドに一応の結論をだすことをめざしている。また、さらに本館受入雑誌の管理についても検討する予定である。

なお、機械化にはその前提として、標準化が重要な問題であり、今後各部局側との連絡調整が必要になってくる。

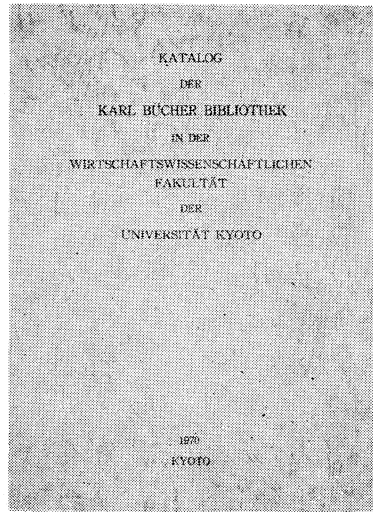
資料紹介

○カール・ビューヒャー文庫目録，京都大学経済学部同文庫目録作成委員会編。1970年3月刊。330P。

本書は経済学部の所蔵する K. Bücher (1847～1930。ドイツ新歴史学派の経済学者) 文庫の目録である。この文庫が岩崎小弥太氏の手をへて本学部の蔵書となったのは、大正13年のことであるが、日本にはこの前後に、著名なドイツの経済学者の蔵書が相次いでもたらされている。第一次大戦終結にともなうドイツ経済の窮迫に帰因するものであろう。主要なものをあげると、メンガー文庫(一橋大学)、ゾンバルト文庫(大阪市立大学)、マイヤー文庫(本学部)などである。

ビューヒャー文庫の内容は経済学を中心とした社会科学全般におよぶことはいままでのないが、その主要な軸の一つは、ドイツを中心としたヨーロッパ諸国の経済史に関する文献であろう。各種の社会問題に関する広範な蒐書も見逃さない。通常のコレクションでは、とかく逸脱しがちなパンフレット、抜刷りの類も実に丹念に保存されている。長い教授生活中に贈られたと思われる博士論文の数は通常の図書館におけるそれを上回るのではあるまいか。「社会政策学会論集」100巻、「シュモラー年報」82巻、「国民経済・統計年報」129巻など、個人の蔵書としてまれにみる充実ぶりといえよう。

この蔵書目録は写真・序言・目次・凡例・分類表・本文・索引・あとがきより構成されている。本文(285頁)は分類順に排列されており、「京都大学法学部・経済学部欧文図書目録分類表」によっている。索引は各著作の記入語(多くは著者名。団体出版物等は書名)をアルファベット順に排列して作成した。巻頭の写真は最も年代の古い M. Luther の“Von Kauffshandlung und wucher (1524)”に、ビューヒャーの書簡、自作の統計表、および蔵書印を組み合わせたものである。



ビューヒャー文庫目録(表紙)

あとがき 本号は図書館員の声の特集号としましたが、静脩は隔月刊なので、“利用者の声”特集号(その一)とは4ヵ月間のへだたりができました。今後は特定テーマをめぐって、利用者・図書館員の声を、同一号に同時に載せるような企画を立ててみたいと考えています。1971年の初めにあたり、紙面充実のための諸兄弟のご鞭撻を期待いたします。

京都大学附属図書館報「静脩」Vol. 7, No. 5 (通号38号)1971年1月15日発行・編集発行人：岩猿敏生 発行所：京都大学附属図書館・京都市左京区吉田本町・電代表771-8111 (内線)2220-2238